

■ヒアリング結果

新焼津体育館の検討にあたり、体育館の設計、施工あるいは運営の実績がある民間事業者、さらに類似規模の体育館管理者へのヒアリングを実施しました。

民間事業者	・ゼネコン 3社 ・リース系企業 3社 ・スポーツ施設運営企業 3社
類似体育館	・兵庫県川西市「川西市市民体育館」 ・袋井市「さわやかアリーナ」 ・掛川市「掛川南体育館 し〜すぽ」

ヒアリング結果に基づく新体育館の検討に参考となるポイントは次のとおりです。

①施設に導入すべき機能、考え方

- ・近年は、トレーニングルームの設置要望が高く、利用者からも評価を得られる。安全性や使い方が分からない人のためにも、指導スタッフを配置する方がよい。
(トレーニングルームを設置することで、民間のスポーツジムの経営を圧迫すると指摘されることが多いが、実際にはそういったトラブルはほとんど発生していない。)
- ・近年の体育館には、更衣室にシャワーがほぼ完備されている。
- ・キッズコーナーは、子育て中の大人からは大変喜ばれる。また、授乳室も評価が高い。
- ・多目的な空間ではパーテーションで仕切り直しができると多様な利用ができる。
- ・施設は全体的に、子どもから高齢者、障がい者が利用できるように、バリアフリー等には配慮することが求められる。
- ・アリーナには直射日光が入らない工夫が必要である。
- ・大規模な災害発生時に、避難所として活用することを想定した施設とすべきである。

②十分な検討が必要な機能、考え方

- ・施設内に売店などを設置しても、売り上げが伸びず、結果的に自動販売機コーナーのようになってしまうことが多い。
- ・飲食店やコンビニエンスストアを併設している施設もあるが、実態として運営はとて大変である。立地条件や市場性等から売り上げを確保できるかどうかをしっかりと検証する必要がある。安易な設置はしないほうがよい。

③運営上の工夫

- ・柔道場は、柔道だけではなく、ヨガなどの健康体操のスタジオとしても利用することができる。（柔道利用だけでは稼働率が上がらないため）
- ・施設利用の仕組みとしてインターネットでの予約システムを整備するとよい。空き情報等も確認できるようになり、それだけで利用が増える場合が多い。
- ・近年の公共体育館には、館内に共用スペース（テーブル・ベンチ）等を配置し、地域住民等が自由（無料）に利用できるように運営している施設が増えている。
- ・施設運営を民間事業者が行う場合、独自で運動や体操の教室等を開催しており、施設の有効活用を図るケースが増えている。